

編集後記

- 翔友会は、また一人偉大な会員を喪った。「チョッケイさん」と呼ばれ、時には怖く、またある時には優しく学生を指導した元学連訓練部長、北尾直敬氏。私事ながら、氏が教官となられて最初に立ち会った実地試験は、私の教育証明試験であったと思う。そして数年後、今度は飛行機の教官として最初に受験させたのが、また私であった。参考資料も乏しく、経験不足な師弟が暗中模索しながら、文字通り一丸となって挑んだ受験対策であったが、お陰でどちらも合格させて頂いた。「良いことも悪いことも」一緒にした先輩であった。

偉大な「チョッケイ先輩」のご冥福を祈るばかりである。 合掌

- 今年の総会は出席者が少なく、至極寂しいものであった。現役の活躍が無いので、OBが盛り上がらないのは当然かもしれないが、それにしても……。
- 75周年記念事業準備委員会が発足し、動き出した。委員長の新庄氏、事務局長の松岡氏は共に50周年前年の主将・主務である。歴史の巡り合わせを感じるし、これ以上の適任者は見つけ難い。全会員上げて協力せねばならないと思う。
- 昨年度は、グライダー事故が多発した年であった。しかも、学連も含めてベテラン教官・社会人が、「あの人が、なぜ？」というような事故を起こしている。殆どがヒューマンファクターに起因しているものと云える。自戒したい。部員諸君は、本誌に寄せられた「新篠津から」をよく読み、筆者のメッセージをしっかりと受け止め、心の糧としてクラブ活動に生かして欲しい。
- 古希を迎えた航空部は、更なる歴史を刻み始めた。先輩から後輩へ、営々として受け継がれてきた70年の重みに相応しい現役の活躍を期待しつつ、翔友 XXI 号をお届けする。
- 執筆者の名文を生かしきれず、編集内容に新鮮味が欠けるのは、偏に編集長の力量不足であり、お詫びする外ない。

翔友 XXI

〈非売品〉

編集 翔友会

平成 18 年 6 月 30 日

発行 同志社大学体育会航空部

印刷 河北印刷株式会社

京都市南区唐橋門脇町28番地
